

「教職課程のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」の 運用・活用方法¹

Implementing Portfolios in Teacher Training Program
: A Case of Tohoku Institute of Technology

中島 夏子

NAKAJIMA Natsuko

1. 文部科学省による「履修カルテ」の要請

「履修カルテ」は、教職課程を履修する学生を対象として、彼らの教職関連科目の履修状況や必要な資質能力に関する評価を入学の段階から継続的に把握し、それを踏まえた指導を行うためのツールである。そして、4年次後期に開講される「教職実践演習」において、それを用いて総括することとされている。その記載事項は、教職関連科目の履修状況、教職に関する学外学習、ボランティア経験等の状況、教員に必要な資質能力についての自己評価と教職を目指す上での課題と考えている事項である。教職関連科目の履修状況は大学又は学生が記入し、必要な資質能力に関する評価は教職科目の担当教員及び学生が記入することとされており、これをどのように取り扱うかは大学の判断となっている。

平成22年度入学生より運用が開始され、平成25年度から新設された「教職実践演習」の中で活用されている。その際の管理・運用組織は、教職課程の運営や教職指導を全学的に行う「教員養成カリキュラム委員会」（仮称）であり、教職に関する科目の担当教員と教科に関する科目の担当教員が協力することとされている²。

近年では、教職課程の自己点検・評価の際の「学修成果の把握・可視化」のために、教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況が求められており、そのために「履修カルテ」が活用することが求められている³。

¹ 本稿は教職 FSD 研修会（令和6年2月13日実施）報告に基づく。

² 文部科学省、2023、『教職課程認定の手引き（令和7年度開設用）』、pp.196-200.

³ 文部科学省 教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議、2021、『教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン』。

2. 東北工業大学における「教職課程のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」

東北工業大学の教職課程は、この文部科学省による要請にしたがって、平成22年度から「履修カルテ」を運用している。学生は教職関連科目の履修状況と必要な資質能力に関する評価を記入し、教員は必要な資質能力に関する評価を記入しており、前者の学生が記入するものを「教職のためのポートフォリオ」と呼び、後者の教員が記入するものを「履修カルテ」と呼んでいる。以下、「教職のためのポートフォリオ」と「履修カルテ」について詳述する。

(1) 「教職のためのポートフォリオ」

「教職のためのポートフォリオ」は学内のLMS上で運用しており、教職課程を履修する学生にアクセス権限を付与している。教職実践演習を担当する教職課程部門の教員は、その全ての学生のページにアクセスする権限を持っている。

同ポートフォリオの項目は、文部科学省の例示に倣って作成しており、具体的には以下の4項目で構成されている。

- ・教職に関する科目一覧とその成績
- ・社会活動・ボランティア活動の記録
- ・教員に必要な資質についての自己評価シート
- ・学生コメント

教員に必要な資質についての自己評価シートは【表1】の通り、「1. 学校教育についての理解」、「2. 子どもについての理解」、「3. 他者との連携・協力」、「4. コミュニケーション」、「5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能」、「6. 教育実践」の6つの領域に関して、学生が自己評価を行うことになっている。各領域は、さらに3つの質問項目に分かれ、学生たちは、その項目について「1:あてはまらない」から「5:あてはまる」のいずれかを自己評価で選択している。【図1】は学生の入力画面のサンプルである。

【表1】 教員に必要な資質についての自己評価シート項目

1. 学校教育についての理解

教職の意義

教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。

教育の理念・教育史・思想の理解

教育の理念、教育に対する歴史・思想についての基礎理論・知識及びその現代的課題を理解していますか。

<p>学校教育の社会的・制度的・経営的理解 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識およびその現代的課題を理解していますか。</p>
<p><u>2. 子どもについての理解</u> 心理・発達論的な子ども理解 子ども理解のために必要な心理・発達の基礎知識を習得していますか。 学習集団の形成 学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。 子どもの状況に応じた対応 いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子供の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。</p>
<p><u>3. 他者との連携・協力</u> 保護者・地域との連携協力 保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。 他者との連携・協力、役割遂行 集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。 子どもの状況に応じた対応 いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子供の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。</p>
<p><u>4. コミュニケーション</u> 発達段階に対応したコミュニケーション 子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。 子どもに対する態度 気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。 公平・受容的態度 子どもの声を新式受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。</p>
<p><u>5. 教科・教職課程に関する基礎知識・技能</u> 専門教科に関する基礎知識・技能工業科・商業科 工業／商業／情報の分野の科目について理解していますか。 教育課程の構成に関する基礎理論・知識 学習指導要領や教科書などの教育課程に関する基礎理論・知識を習得していますか。(教育課程：教科・総合的な学習の時間・特別活動・道徳教育) 学習指導法 情報教育機器の活用を含む学習指導法にかかる基礎理論・知識を習得していますか。</p>
<p><u>6. 教育実践</u> 教材の分析・開発 教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を分析・開発し、指導案としてまとめることができますか。 授業展開力 子どもの反応を活かし、適切な板書や発問をしながら授業を展開することができますか。 学級経営力 学級経営に必要な、集団をまとめて導く力を身につけていますか。</p>

必要な資質についての自己評価

※自己評価として 1:あてはまらない 2:どちらかといえばあてはまらない 3:どちらともいえない 4:どちらかといえばあてはまる 5:あてはまる の基準から選んでください。

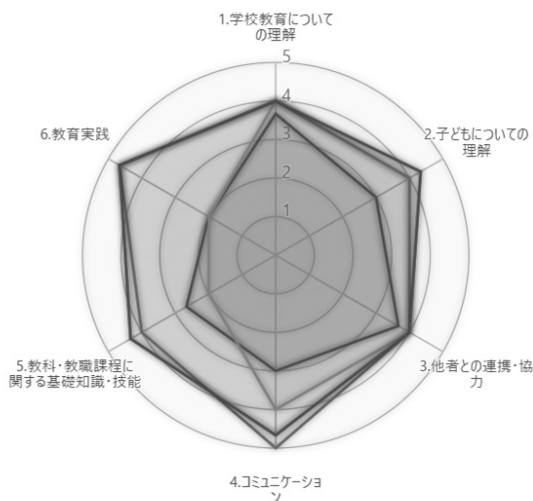
1.学校教育についての理解					
	1	2	3	4	5
教職の意義 教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1	2	3	4	5 ◆
教育の理念・教育史・思想の理解 教育の理念、教育に対する歴史・思想についての基礎理論・知識及びその現代的課題を理解していますか。	1	2	3 ◆	4	5
学校教育の社会的・制度的・経営的理解 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識およびその現代的課題を理解していますか。	1	2	3	4 ◆	5

【図1】 教員に必要な資質についての自己評価入力画面（例）

学生が自己評価を行うと、【図2】のようにレーダーチャートが自動的に作成される。1年次から4年次の結果が一つのレーダーチャート上で表示されるため、その推移が分かりやすくなっている。学生は、この結果の他、教職に関する科目の成績や社会活動・ボランティア活動の記録を踏まえて、各年次の総括を行い、コメントを記入している。

(2) ポートフォリオを用いた教職指導

教職のためのポートフォリオは1年次から開始し、それぞれの年次の後期に開講される教職科目の授業の一部を使って、ポートフォリオの入力を行わせている。担当教



【図2】レーダーチャート（学生が作成した一例）

員は学生が入力を行っている間に机間指導を行い、各学生がどのような自己評価を行っているのかを確認し、コメントしている。

このポートフォリオを記入する前に、15～30分程度の時間を使って教職課程に関する情報提供も行っている。学年によってその内容は多少異なるが、1年次と2年次の学生には、【表1】に示された教員に必要な資質がなぜ必要なのかという事や4年間の教職課程の履修のプロセスを周知することによって、その後の教職課程の見通しを立てさせることを意識している。また、3年次の学生には、教職への就職指導を中心に行っている。4年次の学生には、「教職実践演習」の第1回の授業でポートフォリオを記入させ、4年間のレーダーチャートとその評価と課題が何なのかを考えさせ、それを発表させている。その一例を今年度の活動実績に掲載しているので、そちらを参照されたい（本紀要 pp.14-17）。

（3）「履修カルテ」

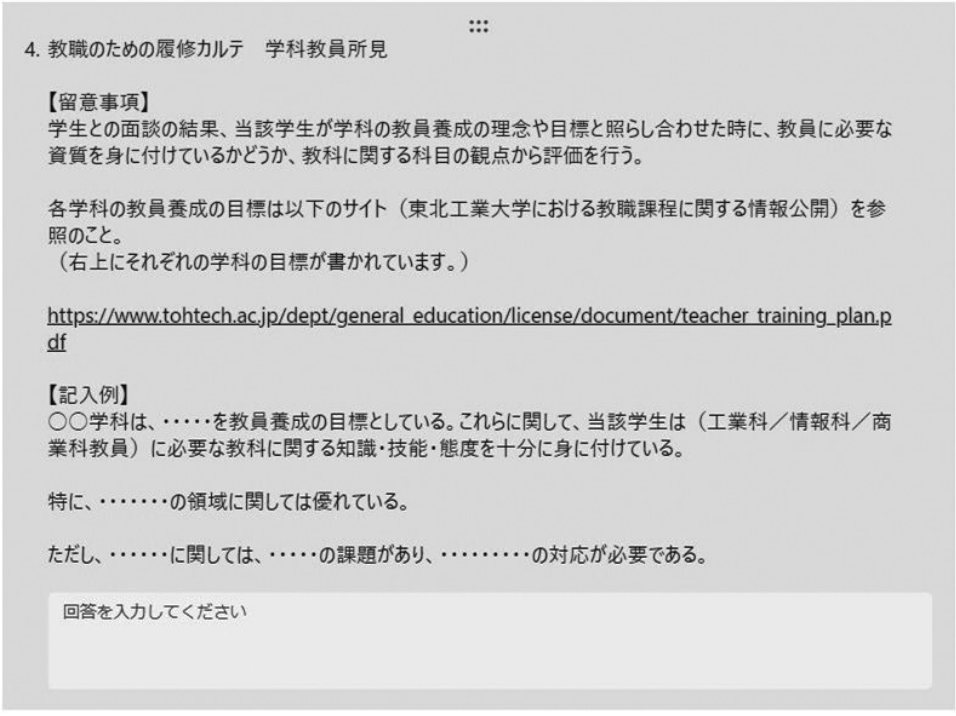
東北工業大学における「履修カルテ」は、4年次の後期に教職課程の教科専門科目の評価を学科の教員が行うものを指す。多くの場合、担当するのは4年次学生のゼミ担当の教員である。各学科は免許種に応じて教職課程の目標を設定しているが、学生の科目の成績や学生との面談を通して、その目標を達成しているかどうかを確認し、その結果を記入している。

現在、「履修カルテ」は Forms という Microsoft Office のアンケート集約のための

アプリケーションを用いて行っている。そして、それによって集約された履修カルテの結果は、教職実践演習の担当教員に共有されている。学生が記入しているポートフォリオと同じLMSを使用する方が情報が一括されて良いのだが、アカウントの権限の付与や管理が煩雑であるため、このような方法をとっている。

【図3】は教員に「履修カルテ」の入力を指示するFormsの画面である。そこに記載の通り、「学生との面談の結果、当該学生が学科の教員養成の理念や目標と照らし合わせた時に、教員に必要な資質を身に付けているかどうか、教科に関する科目の観点から評価を行う」ものである。記入例にもある通り、教員養成の目標に対する評価だけではなく、当該学生が優れている領域の他、その課題と対応策についても記載を求めている。

学生との面談を含め、これらの一連の活動を教職実践演習の一環として行う事で、教職関連科目に偏りがちな教員による評価のバランスをとることを目指している。



⋮

4. 教職のための履修カルテ 学科教員所見

【留意事項】
学生との面談の結果、当該学生が学科の教員養成の理念や目標と照らし合わせた時に、教員に必要な資質を身に付けているかどうか、教科に関する科目の観点から評価を行う。

各学科の教員養成の目標は以下のサイト（東北工業大学における教職課程に関する情報公開）を参照のこと。
（右上にそれぞれの学科の目標が書かれています。）

https://www.tohtech.ac.jp/dept/general_education/license/document/teacher_training_plan.pdf

【記入例】
○○学科は、……を教員養成の目標としている。これらに関して、当該学生は（工業科／情報科／商業科教員）に必要な教科に関する知識・技能・態度を十分に身に付けている。

特に、……の領域に関しては優れている。

ただし、……に関しては、……の課題があり、……の対応が必要である。

回答を入力してください

【図3】「履修カルテ」入力指示画面

3. 同取組の成果と課題

以上が東北工業大学における教職のためのポートフォリオと履修カルテの運用とそれを用いた教職指導の全容である。この活動の成果については、これまでに小川・中島（2023）によって検証が行われている。それによると、教職のためのポートフォリオの結果から、1年次から4年次にかけて、教員に必要な資質の6項目全てについて、ほとんどの学生の自己評価が上がっていることが明らかになっている⁴。また、令和5年度の「教職実践演習」の中で行ったインフォーマルなインタビューにおいて、「教職のためのポートフォリオ」が、自らの資質能力の獲得の振り返りに有効であったと4年次学生は回答している。

この運用に当初から関わってきた筆者の実感としては、特に1年次と2年次の学生の履修指導にポートフォリオは有効であると感じている。なぜならば、この時期の学生には、まだ教育実習という具体的な目標となるものがなく、教育の思想や理論、制度等の「実践的ではない」座学を中心とした科目の履修が続くからだ。ポートフォリオの記入とその際に行う履修指導は、そうした学生が教職課程を全体的かつ長期的な展望で見通し、現状を評価する契機となっていると思われる。ただし、注意しなければならないのは、ポートフォリオを記入させるだけでは、そのような効果は期待できないということだ。これを履修指導のツールとして活用するという視点が必要不可欠で、そうでなければ、その効果は限定的にならざるをえない。そして、この履修指導には、教職課程に関する情報提供やポートフォリオの記載内容に関するフィードバックだけではなく、そこから派生した個別の履修相談や進路相談も含まれ、担当する教員の負担は小さくはない事も付言しておく。

学科の担当教員が記入する「履修カルテ」の成果については正式な検証を行っていないため、今後、全学的な運用組織である教員養成審議委員会が主体となって行っていく事が期待される。

現状の運用における課題は、学生が記入する「教職ポートフォリオ」と学科教員が記入する「履修カルテ」が別に運用されていることによって、情報の共有が困難であることである。今後は、それを同一のシステム上で行う事によって、改善を図っていくことを検討していく必要があるだろう。

⁴ 小川和久・中島夏子、2023、「教職履修生による教員としての資質能力に関する自己評価」、東北工業大学総合教育センター（教職分野）『教職研究紀要』、第8号、pp.7-16.